

No.10

2003年9月1日号

各チームの購読料はチ
ーム登録料に含まれてい
ます。定価(一部50円)

熊本県サッカー協会だより

発行／熊本県サッカー協会
〒860-0831
熊本市八王寺町9-60
TEL 096-334-5565
FAX 096-334-5568
発行者／©広報記録委員会
石丸 捷一

第34回 九州中学校サッカー競技大会

九州ルーテル中学校初の全国中学校大会出場



平成15年度第34回九
州中学校サッカー競技
大会は全国中学校大会
の予選を兼ねて各県2
チームの計16チームに
よるトーナメントにて
大津町運動公園4会場
で行われた。

しかし台風10号の影
響で一日目の8月8日
は中止となり土曜日が
第一日目となつた。

8月9日(土)に一回戦
と準々決勝が行われ
た。全国大会の予選を
重視した大会に変更さ
れた。

前半は福岡県代表の
折尾愛真中学が2対
0で先制攻撃でリード
するも後半ルーテル学
院中学校の鮮やかな逆
転だつた。10分までに
5得点をあげホイツス
ルの終了時には6対2
創立3年目で全国大会
のキップを手にした。

又本大会では田中信
也君がハットトリック
を達成。県勢13年ぶり
の全国制覇も夢ではな
いかもしれぬ。



	熊本	宮崎	鹿児島	福岡	勝ち点	得失差	総得点	順位
熊本		① 4-0 ○	③ 2-1 ○	⑤ 3-0 ○	9	+8	9	1
宮崎	① 0-4 ●		⑥ 2-3 ●	④ 1-3 ●	0	-7	3	4
鹿児島	③ 1-2 ●	⑥ 3-2 ○		① 4-2 ○	6	2	8	2
福岡	⑤ 0-3 ●	④ 3-1 ○	② 2-4 ●		3	-3	5	3



今年で11回目になる
RKKカップ火の国ト
レセン大会が8月13日
(水)14日(木)の両日熊
本市パークドームで行
われ、熊本県トレセン
が初優勝をした。

九州各県のU-12選
抜チームが8人制のゲ
ームで競い合つた。
第2クオーターリーでは選
手を入れ替えなければ
ならない、またコ
ートの広さも11人制よ
りも狭く、試合の展開

熊本県トレセンが初優勝

第11回RKKカップ火の国ト
レセン大会

8人制ということで、
試合時間も12分-1分
-12分-5分-12分の

3クオーターリー制で行わ
れ、第1クオーターリーと

第2クオーターリーでは選
手を入れ替えなければ
ならない、またコ

ートの広さも11人制よ
りも狭く、試合の展開

も早い。

ボールを奪つたら一
気にゴールを狙う攻撃
が随所で見られた。

大会初日は、宮崎、
長崎、大分と熊本の4
チームで争う予選リーグ
で熊本は2勝1敗の

1位で通過した。2日
目は、前日の予選リーグ
で勝ち抜いた4チーム
がリーグを組んで優
勝を争つた。宮崎に4
-0で快勝すると鹿児

島には第3クオーターリー
で2点を取り、1-2
で逆転勝ち、そして福
岡を3-0で下し初優

勝を手にした。

グで勝ち抜いた4チーム
がリーグを組んで優
勝を争つた。宮崎に4
-0で快勝すると鹿児

島には第3クオーターリー
で2点を取り、1-2
で逆転勝ち、そして福
岡を3-0で下し初優

勝を手にした。

県協広報委員林田晋

法人化について 3

前回号までに法人化のメリット・デメリット等の基本的事項や基

ト等の基本的事項や基

本財産・会員・会費・理事等について定款の一部を審議検討したことを報告しました。

今月号は、第七回委員会（八月六日午後七時から九時迄開催、場所は協会事務室）と第八回委員会（八月二十日午後七時から九時迄開催、協会会議室）の審議検討内容を報告します。引き続き定款作成の一部として役員構成と組織について検討しました。まず、法人の

組織図を作成し、組織の概要を掲んだ上で審議することにしました。以下はその審議内容と決定事項の抜粋です。

①連絡調整会議の役割は理事会の議案整理と諸報告が主体となっており、連絡調整会議は廃止し現在の職務は事務局で処理する。また、連絡調整会議に代わり常任理事会的な組織は置かず、必要時に会長や理事長が召集して有効的且つ機動的な会議を開催する。

組織図には表示しない。

②事務局の位置付けと役割は、委員会等を総括し理事会と直結する部門とも考えられるが、一般的な事務処理部門として立案・執行部門に位置付けする。

③部会について、全国的には部会でなく登録上の種別が呼称となっている。一種から二アまで登録上の種別で区分し、種別委員会と呼称する。また、一種

は社会人・学生とに区分、また2・3・4のクラブは種別毎に区分する。

④立案・執行部門は、事務局と種別委員会、専門委員会、郡市連絡協議会とする。

第27回全日本少年サッカー大会決勝大会が7月28日(月)から8月2日(土)までの6日間、東京よみうりサッカーフィールドなどで行われた。

参加したのは全国8千数百チームの中から各都道府県予選を勝ち抜いてきた48チーム(うち埼玉県は昨年優勝しているので2チーム)で熊本県からは熊本ア

クアサッカーカラーブ(代表として出場した)が準決勝を勝ち、愛知県(西日本SS(岐阜県)と対戦した。

結果は、大槌SS(6対0で勝ち、愛知FCには0対0の引き分け、西日本SSには0対

平成15年度 第34回全国中学校サッカー大会

熊本ルートル学院中学校 第3位

写真撮影は、西村一弘氏
田中清澄氏
裁判官は、北村一弘氏
準決勝は岩手の北稜
戦。ルートルは開始1

分に田中が得点し前半を2対1でリードした。
後半9分田中がドリブルで突破し3点目を決め勝利する。8月22日、

大会を終え、24日に

関係者が出迎える中、

帰郷したルートルは全

国制覇への誓いを新たにした。

⑤特別役員(名誉会長・顧問・名譽副会長・顧問・参与)について、顧問・参与の職務は区別の必要なく、顧問・参与は一本化する。また組織図上の位置付けは理事会に並ぶ。

⑥監事は総会と理事会の間に位置する。

⑦種別委員会とクラブ・連の関係はどうするか。次回検討事項とする。なお、今後も検討により組織構成や組織図の概要が確定すればこの紙面で紹介します。

第27回全日本少年サッカーフィールド(三浦淳宏、田中隼磨)との交流会が行われた。

優勝は江南南SS(埼玉県)大会に参加した熊本アクラサッカーチームで4チームで12組で総当た

り戦を行った。4チームが4チームで12組で総当た

り戦を行った。4チームが4チームで12組で総当た

り戦を行った。4チームが4チームで12組で総当た

第27回全日本少年サッカー大会決勝大会

サッカー選手の食事と栄養(5) ～試合期の食事～ その1

これまで、身体作りや合宿時の食事などについてお話しきましたが、多くの選手が一番知りたがっているのが「試合の時には何を食べればいいのか?」という問題です。

これを食へれば絶対シュート出来

ませんが、試合をフルに動くためにリコーゲンの量が大きく関わっています。それではこれがわかつています。それでは

筋グリコーゲンを高めるためにはどう

筋グリコーゲンを高めるためにはどう

2で負け、第1次ラウンドを通過することが出来なかつた。

埼玉県アクラサッカーチームの野田盛一朗氏はサッカーが出来るだけではなく、生活面、精神面が整つておかないと勝ち上がつてはいけない。

しかし、子供達にとつてはいい思い出になつたと思う。と話しています。

レベルの高い大会だ。しかし、子供達にとつてはいい思い出になつたと思う。と話しています。

【試合前日メニュー例】

(朝食) 御飯(又はジャムトースト)・豆腐の味噌汁・ハムと野菜の卵炒め

(昼食・弁当の場合) おにぎり・魚の蒲焼風・ニラ入り卵焼き・スパゲティナポリタン・納豆・フルーツヨーグルト

(間食) 牛乳・バナナケーキ

(夕食) 御飯(豚肉生姜焼き・マカロニサラダ・ピーマンとじゃこの焼き浸し・団子汁・メロン)

● 糖質の多い食品

・ごはん・うどん・もち・パン・か

・ごはん・みそ汁・みかん

・野菜の煮物・白身の焼魚・多めの

・豚肉・大豆などに、ビタミンB2は

・レバー・やウナギ・卵や緑黄色野菜、牛乳などに多く含まれます。(ビタミンCは果物

・しやすい、ストレスに弱い、といふ場合には抗ストレスビタミンであるビタミンCが不足しないよう気をつけましょう。(ビタミンCは果物や緑色野菜のほかにじやが芋などにも含まれます。)

(2)試合前は食べなれたおかげで

試合だからといって特別な物を食べる必要はありません。自分の好き

なおかつ普段より御飯を多めにたべましよう(ただし、天ぷらやフライなどの油っこいものはX)。御飯

は、手巻き風やおにぎりにしても食

【参考文献】ジュニアアスリートの食事と栄養・ベースボールマガジン社・選手を食事で強くする本・明治製菓健康事業部出版



(2)試合前は食べなれたおかげで試合だからといって特別な物を食べる必要はありません。自分の好きなおかつ普段より御飯を多めにたべましよう(ただし、天ぷらやフライなどの油っこいものはX)。御飯は、手巻き風やおにぎりにしても食

べやすいですね。団子汁や水餃子、もちやそうめんを味噌汁に入れるなど、汁物に工夫してみるのも一案です。また、間食でも蒸しパンやカステラなど糖質の多いものをとりました。さらに、試合前には避けた方が無難です。

刺身などの生ものや、ゴボウの金平など纖維が多くガスが出やすいものも一案です。また、間食でも蒸しパンやカステラなど糖質の多いものをとりました。これを食へれば絶対シュート出来ます。また、試合前に避けた方が無難です。

刺身などの生ものや、ゴボウの金平など纖維が多くガスが出やすいものも一案です。また、間食でも蒸しパンやカステラなど糖質の多いものをとりました。これを食へれば絶対シュート出来ます。また、試合前に避けた方が無難です。

平成15年度 第23回 九州ブロック国体サッカー競技

少年男子は3位で本大会出場 成年男子、女子共に敗退



第23回九州ブロック国体サッカー競技全国大会の予選は平成15年8月16日(土)・17日(日)18日(月)の3日間成年男子は佐賀県総合運動陸上競技場及び球技場で行われた。

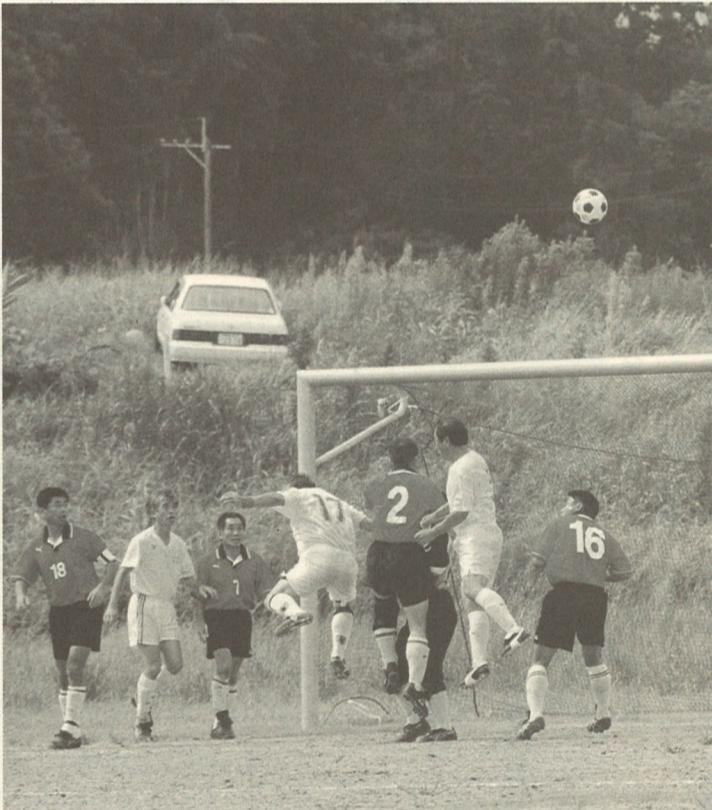
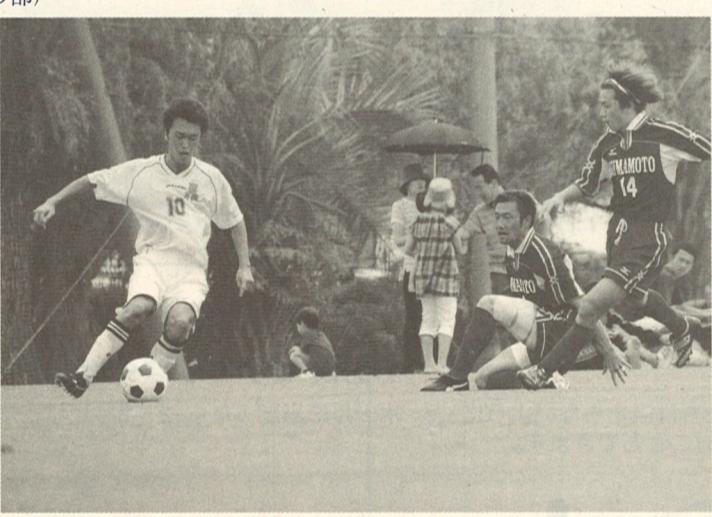
少年男子は球技場で、成年女子は鳥栖市陸上競技場及び鳥栖北部グランドで行われる。少年男子は佐賀県総合運動陸上競技場及び球技場で行われた。成年男子は熊本県選抜チームがAパート2勝1敗で総合順位3位で本大会出場が決定した。

又成年男子と成年女子はトーナメントで行われ成年男子は一回戦で成年女子は二回戦で敗退しあしくも本大会出場を逃した。

健闘する少年男子対大分選抜チームとの戦い。



善戦むなしく対沖縄選抜チーム(成年男子の部)



平成15年度第12回熊本ニアサッカーリーグは今年のみ総当たり一回戦で行われた。4月27日(木)開幕8月17日に最終戦を迎えた。

第8節迄の成績は一位

に熊本ベアーズサッカークラブ7勝1分で勝点22、二位に熊本県教育蹴友田OB6勝2分の勝点20、三位にランザ熊本ニアサッカーチーム6勝1負1分の

勝点19、最終戦まで優勝が決定せずに8月17日を迎えた。熊本ランザ対熊本ベアーズは1対1の引き分けで熊本ベアーズの優勝が決定した。

熊本ベアーズSC 11度目の優勝

第12回熊本ニアサッカーリーグ戦

6歳以下のこども達をサポートするサッカーガイド

JFAキッズ(U-6)ハンドブック③

サッカーをやつてみよう!

ステップ2

ポイント②
誉めること、その気にさせること。
子どもの特徴をうまく活用しましょう。

子どもたちは、「近い大人に認められたい、まねしたい、集団の中で認められたい。」という欲求を持っています。この特徴を活用し、子どもたちにどんどん声をかけましょう。誉めることはもちろ

子どもたちは、6歳頃までに脳の神経系は大人の90%にも達します。いろいろな運動にチャレンジすることができます。サッカーだけにこだわらず、ほかのいろいろなことに積極的にチャレンジしましょう。

大人もいつしょに動いて、楽しみましょう。

目先を変えて、楽しくあきさせないようによどもたちの好奇心を刺激するメニューを工夫してみましょう。回数や時間を決めて、競走の要素を入れることも効果的です。また、子どもたちは、大人がいつしょに動いてくれることを喜びます。モンストレーションでよい見本を見せるとともにこどもたちといっしょに楽しみましょう。

子どもたちにとって「サッカーを楽しむこと」が何より大切です。子どもは小さな大人ではありません。大人のサッカーに子どもを合わせてはいけません。また、子どものゲームを大人のゲームにしてはいけません。

からだを動かすことが楽しい！うれしい！おもしろい！

子どもたちが楽しめるようなサッカーをしましょう。みんなとサッカーをやつて楽しくいろいろな経験をすることが大事。結果や勝敗は、この年代では重要ではありません。勝つてうれしい！負けたくやしい！でも結果や順位は記録しない。こどもたちの成長を、やさしく辛抱強く助けてあげましょう。

この年代のサッカーのポイント

ポイント①
興味を持続させる工夫を。

6歳頃までに脳の神経系は大人の90%にも達します。いろいろな運動にチャレンジすることができます。サッカーの発達を活発にします。この時期は多くの運動能力を身につける絶好のチャンスなのです。サッカーワークだけにこだわらず、ほかのいろいろなことに積極的にチャレンジしましょう。

子どもたちのスタートは、「自分のボール」だけの関係ですが、少しづつ世界が広がっていきます。その過程で仲間「友だち」と協力することの大切さを感じる場面、喜んだり、悔しがったりすることを味わう場面もつくっていきましょう。

ポイント④
喜びや悔しさを味わう

子どもたちの中には、精神的にも、肉体的にも個人差やアンバランスが存在することを決して忘れてはいけません。子どもたちは、トライ&エラーの積み重ねで成長していくのです。一人一人にどのように対応するかが、常に求められています。いろいろな場面で「待つ」（こどもたちを受容する）余裕を持ちましょう。

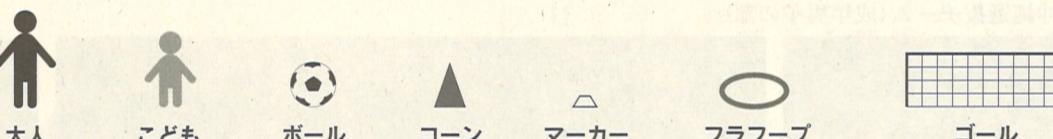
ポイント③

大人の通りでできなくても、しからないこと。うまいかないこどもへの配慮も忘れずに。

からだを動かすこと、遊ぶことが大好きなこどもたち。そんなこどもたちに合わせて動く機会をたくさんつくってあげましょう。

本文は財團法人日本サッカー協会、CHHQ発行のキッズハンドブックより、次号につづく

動き作り

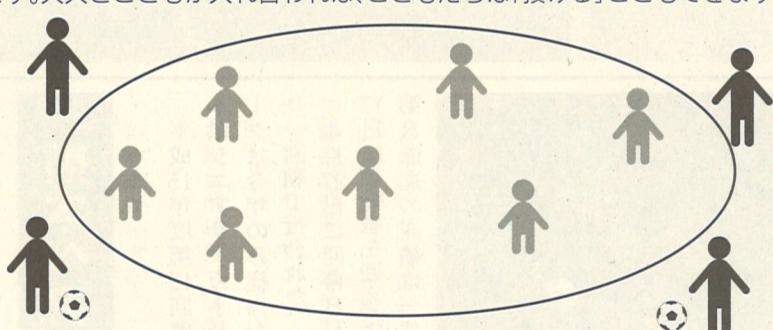


「歩く」「走る」「投げる」「跳ぶ」そして「蹴る」単純な動きも道具を使ったり、組み合わせることで思っている以上に難しくなります。いろいろと組み合せを変えて、遊び感覚で動き作りを楽しみましょう。

歩く」「走る」「投げる」「跳ぶ」

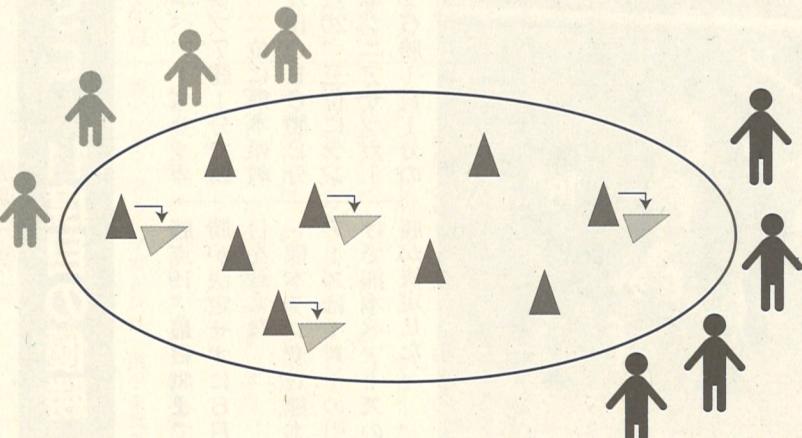
③ ころがしドッジ

大人がこどもたちをねらってボールをころがします。こどもたちは当たらないように逃げます。大人とこどもが入れ替われば、こどもたちは「投げる」こともできます。



④ コーンたおしゲーム

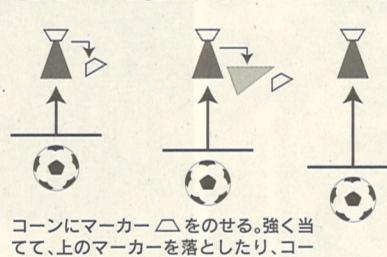
大人チームとこどもチームの2グループで、コーンを倒す、起こす、を競います。



《応用》ビリビリばくだんゲーム

ボールに当たつたら、2~3秒ビリビリしひれたジェスチャーをします。

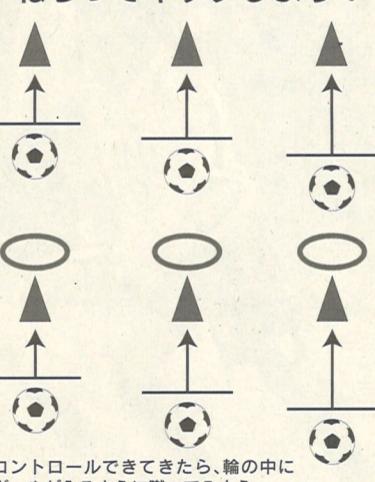
② ねらって強くキックしよう！



コーンにマーカー△をのせる。強く当て、上のマーカーを落したり、コーンを倒したりしよう。

「蹴る」……キック

① ねらってキックしよう！



コントロールできてきたら、輪の中にボールが入るように蹴ってみよう。

《応用》

こども2チームで、コーンを倒すグループと、コーンを起こすグループの対抗戦にします。

こどもvs大人の方が、こどもたちにはわかりやすいでしょう。こどもvsこどもは、発展型として、こどもたちがルールを理解した段階でとり入れてみてください。